

パフォーミングアーツ・ウェーブ

1. Noism 1 見世物小屋シリーズ第3弾『Nameless Voice～水の庭、砂の家』

* 見世物小屋シリーズ3部作完結編

* 愛知芸術文化センター開館20周年記念

日 時：2012年10月12日（金） 19時30分開演

13日（土） 16時開演

場 所：愛知県芸術劇場小ホール

スタッフ・出演者：

演出・振付：金森穰

出演・テキスト：Noism1、小尻健太

音楽：utp_(alva/noto+ryuichi sakamoto)

衣装：堂本教子



金森穰氏のアフタートーク風景

演出振付家の金森穰のもと、日本のダンスシーンを牽引してきた新潟市のレジデンシャルカンパニーの Noism 1 による、「見世物小屋シリーズ」の新作にして 3 部作の完結編である「Nameless Voice～水の庭、砂の家～」を上演した。本作では、身体表現における言語表現とは何なのかを問い、演劇と舞踊の間に横たわる境界線を、そして現代社会が直面するであろう環境問題を「水」という切り口で、新潟市りゅうとびあ始め全国5つの公立文化施設の共同製作により創作する初の作品となった。

各地を回るツアーにより、作品の再演を繰り返したことにより明らかに質が上がり、公演ごとに高いレベルの上演ができた。また、愛知では、全3作の「見世物小屋シリーズ」をすべて上演しているため、リピーターの観客も多く、販売開始時からチケットの売り上げも好評、公演前には完売となり、ひとつのカンパニーを継続的に見せていくことのメリットを感じるようになった。アフタートークもこれまでにない盛況ぶりで、Noism のファンが着実に根付き始めていることを感じた。



撮影：加藤光

* 関連事業： Noism 1 バレエ/レパトリー ワークショップ

日 時：2012年10月14日(日)

Noism バレエ 12：30～13：45

Noism レパトリー 14：00～15：15

場 所：愛知県芸術劇場大リハーサル室

講 師：Noism バレエ 青木枝美（アシスタント 真下恵）

Noism レパトリー 真下恵（アシスタント 青木枝美）

参加者数：バレエ 27名 レパトリー 23名

Noism の公演に合わせて、ダンサー対象のワークショップを行った。Noism は、金森穰氏がこれまでの体験をもとにオリジナルの Noism バレエを開発し、毎日のレッスンで取り入れている。Noism バレエのワークショップを行うことにより、この地域のバレエダンサーたちにコンテンポラリーの身体の使い方を知ってもらう機会とした。また、Noism の作品のレパトリーを体験してもらうことにより、プロとして活動するダンサーとしての技量を体験してもらった。

中学生から40代のプロのダンサーが参加したが、県外からの参加もあり、コンテンポラリーを学ぶ機会の少なさとダンサーたちが、本格的に学ぶ場を切望していることを強く感じた。



* 関連事業：教育関係者による懇談会『義務教育におけるダンスの必須化を迎えて』

日 時：2012年10月13日(土) 14時50分～15時50分

場 所：愛知県芸術劇場大リハーサル室

出席者：金森穰（演出振付家・舞踊家 りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督／Noism 芸術監督）、

県内小中学校、高等学校、大学教員、舞踊家、その他教育関係者

参加者数：30名

平成24（2012）年度から中学1、2年生の男女に「ダンス」が必修になったことを受け、その課題や可能性について検討する目的で、演出振付家・舞踊家で舞踊団 Noism の芸術監督である金森穰氏を迎えて、教育関係者の皆様と懇談会を開催した。

金森氏は、Noism の活動拠点である新潟市でも、市内の小中学校の先生方を対象にしたワークショップを行ったり、実際に教育の現場でダンスに関わっておられる方々との意見交換会等

も開催されているため、実際の授業内容などより具体的な話が展開された。当地域の教育関係者からも活発な発言や質問が投げかけられ、短い時間でも大変有意義な懇談会となった。

